



NO. 956
 発行
 2018年
 8月25日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 加藤 秀夫
 編集責任者
 教 宣 部

全国大会特集

第87回定期全国大会
 2018年7月26日～27日開く

全国大会特集 になります。大会二日目の後半と財政小委員会の代議員の発言をまとめました。

認定を拒否

アスベストでの労災認定の裁判闘争を展開している。地裁は認定



基準を認めない、現在、高裁へ。団体署名が5月1日、1348筆を高裁へ提出した。

アスベスト・石綿について、もっと一歩前に出た取り組みが必要だ。

認定を拒否した、問題が発生しないと認定しない。JRと運輸機構が相互に責任のなすりあいをしている。

エルダー社員・再雇用者の組合費値上げ・組合費の値上げを実施するなら再雇用者の労働条件改善

組合活動の弾圧

の闘いの取り組み強化が求められる。納得しないのではないが。

会社は、未加入者（東労組脱退者）に対して以前の国労の闘争などのビデオを見せて勉強会をしている。会社側から組合活動の弾圧がある。

国労は労働組合の大切さを訴えている。グループ会社の連絡会や

「労働基準法」抜粋

(労働時間)

第32条 使用者は、労働者に、休憩時間を除き一週間について40時間を超えて労働させてはならない。

2 使用者は、一週間の各日については労働者に休憩時間を除き一日について8時間を超えて労働させてはならない。

(災害等による臨時の必要がある場合の時間外労働等)

第33条 災害その他避けることができない事由によって、臨時の必要がある場合においては、使用者は行政官庁の許可を受けて、その必要の限度において33条から前条まで若しくは第40条の労働時間を延長し、又は第35条の休日に労働させることができる。ただし、事態急迫のために行政官庁の許可を受ける暇がない場合においては事後遅滞なく届出なければならない。



出向先は 厳しい労働環境だ
 委託職場の実態について、東京駅はエルダー社員が現職の数を逆転した。エルダーの出向者は厳しい労働環境だ。職場は委託化が進んでいる。エルダーの出向者は厳しい労働環境の中、精神的なストレスがある。

JR北海道16路線 維持できない

安全問題、新幹線が発足して運輸収入が減った。トンネルの整備費用や車両のメンテナンスなどで赤字だ。
 赤字の状況だが新幹線は札幌延伸を進めている。新幹線開通により並行在来線が第三セクター化される。
 職場は合理化が進み技術継承ができていない。そのため車両故障が多発している。JR北海道は16路線が維持できないと発表している。



学習会を開催した。若い人たちも含めて国労加入者も勉強したいと話している。

委託化に反対

60歳の再雇用の労働条件改善についても、団交など取り組むことや組織拡大へも取り組みをすすめる運動をつなげていく。委託会社との交渉は必要だ。

労働契約法から賃金の改善や安全・安定輸送について訴え、委託化に対して反対していく。

エルダー・再雇用者の組合費改正について要求の改善をしていかなければ理解を得られないのではないが、時間をかけて丁寧な説明が必要だ。

組合の必要性を訴える

組織拡大、会社は労働組合を否定、東労組に介入し組合不要論が大きくなっている。労働者意識の低下について国労として組合の必要性を訴え、労働者を守るには組合だと訴えている。そして拡大につなげていく。



丁寧な説明が必要だ

スト基金の改正について「財政上
 どのようなか。目的外使用は認められ
 ない。全体の議論の中で決めていく
 こと。安易な採決はしないこと。他
 労組とは違う国労としての闘う方針
 を示していくこと。反合理化闘争や
 地域への取り組みなど訴え連携を大
 胆にしていくこと。



青年が国労加入

西日本豪雨災害の緊急支援に対し
 御礼。
 組織拡大、3名の拡大目標で取り
 組んでいる。職場での世話役活動な
 ど、プライベートについても交流を
 深めている。青年が国労加入した。
 団結レクなど参加を訴え、さまざま
 な取り組みの中で交流を深めている。
 労働条件改善、職場では技術継承

財政小委員会での意見

大会第一日目終了し、その後、財政小委員会が開催されました。委
 員会では、スト基金目的外使用について、再雇用者の組合費の改正に
 ついて提案され、それについての意見が各代議員から多数発言がありま
 した。ここでは、代議員の発言内容をまとめて編集しました。

現在の組織状況～再雇用者の割合は全体の33%に達している。ここ
 数年で現職と逆転する。そのため基金の取り崩しをしないと予算編成が
 できない状況だ。基金から3000万円を取り崩した。規約改正をしてスト
 基金から5000万円を取り崩した。再雇用者の組合費改正についても提案。

その提案に対して多くの意見が出された。

地方交付金について～各地方の運動は国労が中心になっている。地方
 へバックアップしていくこと。地方への交付金の減額は納得しない。分
 会は地域共闘への運動を展開している。高崎はこれ以上減額されると厳
 しい。

地方への減額は厳しいがエリアの運動を中心に強化していくことなの
 でしかたないのでは。

仙台は専従枠が無くなる。年間、財政上厳しい。減額はやめて欲しい。
 地方への交付金を減額しないで欲しい。

地方交付金の減額は、地方の財政が8%減額になる。地方財政を見直
 さなければならない。専従が置けない状況の中、厳しくなる。地方の運
 動が切り捨てられるのではないか。

再雇用者の組合費の値上げ～各地方でも厳しい問題だ。討議資料を各
 地方へ。闘う方向を見せながら作成して理解し議論を。

再雇用者の組合費値上げ～本部が労働条件改善の取り組みがなかなか
 見えてこない中で説得できるか。地方の役員の気持ちをわかって欲しい。

再雇用者の組合費値上げ～1年間議論する。33%の組織率になる。
 本部だけでなく地方の財政もかかってくる問題だ。労働条件改善につ
 いて組合が責任を持って取り組んでいけるのか。パートナー会社の労働
 条件を改善できるか。JRを通じて改善させる取り組みを進めていくこ
 とだ。

再雇用者の組合費2300円についてもっと早く議論すべきだった。だん
 だん組織が減っていく状況ではしかたないか。

スト基金の規約改正は1回限りでやめること。財政上厳しい状況をど
 うするか議論する。1年間の議論が必要だ。地方へのオルグは必要だ。
 丁寧な説明を。

本部として財政再建を出していくこと。緊縮財政でどう運動を進めて
 いくのか。



18春闘へベア0阻止。他労組も含
 め交流会を実施した。ベア0の回答、
 JR間格差がある。統一要求ではなく
 パーセントでの要求、各エリアごと
 の交渉にしていこうべきだ。
 大雨による災害で各線区では復旧
 のめどがたっていない。九州の日田
 彦山線が上下分離方式になる。

各エリアごとの交渉に

について問題。プロパーへの技術継
 承は難しい。安全問題や作業性は悪
 くなっている。そして職場では不満
 や問題が発生している。職場要求に
 ついて話し合いなど取り組み、要求
 作りをしている。

ストライキの配置を

18春闘、ストを配置し取り組みを
 進めきた。貨物職場の要求を実現す
 るためにはストを配置した闘いを訴
 えている。ストに入らないと団結が
 強まらない。会社側の回答後に判断
 を。

新賃金制度、貨物では、この本質
 について貨物労働へ訴えていく。
 安全問題、ホームにすぎ間があり
 転落事故が発生している。
 組織のあり方、要求を実現してい
 くには、数の力、全国単一組織だ。
 組織拡大、63歳の国労加入と40歳
 の国労加入があった。18名の拡大だ。
 組合員を信頼し組織拡大行動を訴え



ていく。

編集後記

ここまで読んでいただきましてあ
 りがとうございます。今回は、全国
 大会特集を3号まで発行しました。
 代議員の発言は、組織拡大など多
 く出されました。国労組織は、再雇
 用者が全体の33%に達し拡大が緊急
 課題になっています。2、3年で逆
 転します。国労運動を継承発展させ
 若い人たちに引き継いでいける環境
 にしていかなければならないと感じ
 ています。

